



にこにこ通信第195号

2010/6/20

〒933-0804 高岡市問屋町 40 (有) 沖商店

沖 昌弘

TEL 0766-25-2525(にっこりにこにこ)

E-mail

FAX 0766-26-5500(ふるへごーごー)

oki2525@oki-shouten.com

謹啓 毎度格別のご最眞に預り厚く
お礼申し上げます。

本通信は、皆様のご意見を頂いて私の
人生修行の糧といたしたたく、ひと月
に一度お届けしています。どうぞ、忌
憚の無いご意見をお寄せくださいませ
ようお願い申し上げます。 謹白。

一 福島第一原発事故が教えるもの

この度の東日本大震災とそれに伴う
原発事故は、私達に多くの事を教えて
くれました。其の中から私が特に感じ
たのは東京電力の事故処理態度です。

私どもの会社では常々、朝礼などを
通じて「仕事はなるべく個人プレーで
はなく全員の総力を挙げてやりましよ
う」と申しています。「自己の存在価値
をアピールして給料を上げて貰いた
い」という従業員の思いは解らなくは
ありませんが、あまり個人プレーを重
視すると取れる注文も取れない例が少
なくありません。衆智を集め、場合に
よっては体も掛けて応援すべきです。
受注の可能性が大な物件は特にそうし
て逃がさないようにすべきですが、前
述の理由から、受注の可能性が大きい
ほど個人プレーになりがちです。

これが受注というプラス要素の事柄
なら、まだ大したことはありませんが、
失敗や防戦といったマイナス要素の事

柄に對しては、会社全力・総力挙げて
当たらねばなりません。ところが自分

の油断や失敗でそんな状態になった
時、ほとんどの人はそれを隠蔽しよう
とします。その気持ちはよく解ります
が、これがさらなる大事を引き起こす
のです。火事を例に採れば、初期消火
のおかげで「ぼや」で済むか、少しの
遅れで大火になるかは紙一重、「一時の
恥かしさ・嫌悪感是我慢して公表する
勇気を持つべきだ」と諭しています。

この度の原発事故も、想像を超えた
自然災害の副産物として起きたもので
はありますが、情報公開、事後手当て
の方法を見ていると後手後手にまわ
り、どんどん大事に広がっています。
その裏には、公表前に自分達だけの力
で処理できないかという驕慢と事故隠
蔽の思い、そしてその結果への無責任
さが強く感じられ、此処まで来ると天
災に人災が加わったと言いたいです。

しかし、具体的に誰がどんな形で責
任を取ろうと、元に戻るわけでもなく、
改めて「無事」のありがたさを思い知
らされました。人とは情けない者で、
病気になるのはじめて健康の有難さを
知り、ものをなくしてはじめてそのも
のの有難さを知るのです。今回の一連
の災害も、神が人間にその驕慢さの反

省を促したのだと私は思っています。
二「諦める」ということ

「諦めなさい」と言うと一緒に「何時
までも未練持たないで忘れなさい」と
いうように使われています。ところが
私の好きな仏教では「諦める」明らか
にする「諦観」に観る(あきらかに
みる)と言う意味です。何を諦に観る
かというと、事象の原因を諦に観るの
です。仏教では「この世の事象には偶
然はなく、そうなる原因が必ず存在す
る(必然である)。見えない・解らない
のは人間の智慧や眼力の未熟なる故。」
と教えています。幼子を亡くしたり、
不幸が続くと「何も悪いことしていな
いののに、何故私だけこんな目に会うの
」と言う言葉をよく耳にしますが、この
様な人いきなり「諦めなさい」と言
うと怒られます。でも少し時間を置き、
落ち着いた時分にこの様に諭すと、前
向きになる方が少なくありません。

失敗してその事に捉われ、徒々悔や
んでいるのを後悔と言います。辛くて
もその失敗を直視し、原因を正しく分
析して前向き力にするのを反省と言
います。「諦める」というのは「嫌な事
を忘れる」ではなく、眼前の事象を直
視し、神仏とその試練・教諭を信じて、
「前向きに努力する」と言うことです。